

平成20年(2008年)12月期 中間決算

2008年8月4日



キリンホールディングス株式会社

《経営全般》

- ◆ マネジメントサマリー
- ◆ 酒類セグメントレビュー
- ◆ 飲料・食品セグメントレビュー
- ◆ 医薬セグメントレビュー
- ◆ その他セグメントレビュー
- ◆ 酒類セグメント：2008年通期 取り組み課題
- ◆ 酒類セグメント：国内酒類 販売見込み
- ◆ 飲料・食品セグメント：2008年通期 取り組み課題
- ◆ 飲料・食品セグメント：国内飲料 販売見込み
- ◆ 医薬セグメント：2008年通期 取り組み課題
- ◆ 医薬セグメント：パイプライン(協和発酵/キリンファーマ)
- ◆ その他セグメント：2008年通期 取り組み課題

《決算概況 及び 業績見込み》

- ◆ 【連結】2008年中間実績 通期見込み
 - ・セグメント別：売上高、営業利益
 - ・セグメント別：営業利益の増減要因
(2008年中間実績、通期見込み)
 - ・経常利益、当期純利益の増減要因
(2008年中間実績、通期見込み)

《在外会社トピックス》(2008年中間実績、通期見込み)

- ◆ ライオンネイサン社 業績概要
- ◆ ナショナルフーズ社 業績概要
- ◆ サンミゲル社 業績概要

《補足資料 (短信補足説明より)》

- ・損益状況 (売上/費用明細)
- ・貸借対照表増減内容
- ・グループ連結財務指標
- ・主な連結会社別損益(2008年中間実績、通期見込み)
- ・国内酒類/飲料売上明細

マネジメントサマリー:08年上半期レビュー

08年上半期レビュー

環境

- ・世界規模の原材料・エネルギーコストの上昇は想定を上回り、収益を圧迫
- ・消費者の生活防衛意識が高まり、低価格品へのシフト進む

戦略的事業投資の効果も寄与し、連結売上高、各利益ともに過去最高を更新

- ◆連結売上高 豪州ライオンネイサン社の好調や、豪州ナショナルフーズ社、4月からの協和発酵社の連結等により増収
- ◆連結営業利益 競争激化や原材料高騰等により、キリンビバレッジ社やナショナルフーズ社が苦戦するも、ライオンネイサン社の好調や4月からの協和発酵社の連結等により増益
※キリンビール社は売上、営業利益とも前年並みの水準(07年7月より新体制)
- ◆連結中間純利益 協和発酵社とキリンファーマ社の株式交換により発生した持分変動利益(726億円)で大幅増

連結

(億円)	08年中間実績	07年中間実績	前年比	増減	4月30日公表 計画値	達成率
売上高	10,478	8,360	+25.3%	+2,118	10,400	100.8%
営業利益	475	428	+10.9%	+47	590	80.5%
経常利益	476	456	+4.3%	+20	530	89.8%
中間純利益	811	167	+383.0%	+644	880	92.2%

※達成率は対
4月30日公表
計画値

成果

- ・キリンビール社では、「定番商品の強化」「糖質オフ商品の強化」「総需要拡大」に一定の成果
値上げの浸透と、収益環境を考慮したコスト削減進む
- ・ライオンネイサン社はナショナル・プレミアム商品へのシフト等、引き続き収益基盤の強化進む
- ・キリンビバレッジ社のベトナム新会社設立など、アジア戦略の進展
- ・協和発酵社の新中計策定と、キリンファーマとの統合に向けた準備進展

課題

- ・想定以上の原材料・エネルギーコスト上昇に対する、各事業の収益基盤強化(特にキリンビバレッジ社、ナショナルフーズ社)
- ・グループ企業間のシナジー追及

マネジメントサマリー:08年通期計画

08年通期計画

上半期の業績と現在の事業環境を踏まえ、下記のとおり通期目標を修正する

- ・麒麟ビール社は、販売数量を見直すも、徹底したコスト削減などにより年初目標の営業利益を目指す
- ・麒麟ビバレッジ社は、年初販売計画との乖離が大きく、コスト削減を進めるものの、売上・営業利益ともに見直し
- ・ナショナルフーズ社は、想定を上回る原材料高騰を受け、営業利益の見直しを図る
- ・協和発酵社、ライオンネイサン社については変更なし

連結

(億円)	08年通期見込 (修正)	07年実績	前年比	増減	08年計画 (4月30日修正)	今回 修正額
売上高	23,300	18,011	+29.4%	+5,289	24,000	▲700
営業利益	1,520	1,206	+26.0%	+314	1,640	▲120
経常利益	1,450	1,233	+17.5%	+217	1,510	▲60
当期純利益	1,240	667	+85.9%	+573	1,300	▲60

重点課題

◆事業会社の自律成長

- ・国内酒類事業は、売上目標の確実な達成に加え、販促・広告費のコントロールや、コスト削減の徹底を図る
- ・国内飲料事業は、次期中計以降の飛躍的成長に向けた事業基盤強化に軸足を移し、収益性重視の活動に（グループ経営資源の投入により、規模拡大のみに頼らない利益成長を目指す）
- ・ナショナルフーズ社は、価格改定やチャネル政策により、収益基盤強化を図る
- ・医薬事業は、新会社「協和発酵麒麟社」の10月発足に向けての体制作り

◆グループ内シナジーによる成長

- ・機能強化のためのグループ組織体制の改善（詳しくは修正中計資料参照）
- ・麒麟ビール社とメルシャン社、麒麟ビバレッジ社との連携など、取組みレベルの高度化を図る

◆大胆な資源配分による成長

- ・既存の中核事業と商品やエリア的にシナジー創出効果が高い、アジア・オセアニアを中心とした飲料および酒類事業への投資を検討（次期中計とあわせ総額3,000億円を備える）

◆企業価値最大化に向けた財務戦略の推進

A red 3D rectangular block with a slight shadow, serving as a background for the title text.

2008年上半期
セグメント別レビュー

2008年中間期 酒類セグメント レビュー

おいしさを笑顔に

KIRIN

営業利益は
全社・消去前

酒類

(単位:億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	5,453	5,481	▲0.5%	▲28
連結営業利益	425	329	+29.1%	+96

ライオンネイサン社の好調に加え、麒麟ビール社の収益を重視した活動が功を奏し、組織改変による本社管理費の減少もあり、大幅な増益に

国内

麒麟ビール

◆ **ビール・発泡酒・新ジャンル計で販売数量はマイナス（前年比▲5.0%）**

<業界> 少子高齢化・嗜好の多様化・価格改定の影響等で2期連続のマイナス(▲4.2%:課税ベース)

<麒麟社> ビール: 昨年の新商品「麒麟・ザ・ゴールド」の反動や、業務用の停滞などにより▲15.5%

発泡酒: 糖質オフ商品の好調などにより業界平均を上回る ▲0.5%

新ジャンル: 定番の「麒麟 のどごく生」の好調に、新規需要創出を目指した「麒麟 Sparkling Hop」が健闘し+8.2%

RTD: 氷結の健闘に、メルシャンからの移管商品やツードックスカクテルがオンし、+5.1%

焼酎・洋酒: 新取引制度導入の影響が大きく、計画を下回る

◆ **コストコントロールの徹底**

・販売数量の計画未達分や、想定以上のエネルギーコスト上昇のマイナス要因を、販促・広告費などのコスト削減により、計画利益に近づけた

メルシャン

◆ **麒麟マーチャндаイジングの効果**

・国産ワイン「おいしい酸化防止剤無添加ワイン」、輸入ワイン「サンライズ」「フロンテラ」などスクリュューキャップ

商品群の販売が2桁増と好調に推移

麒麟ビールから昨年7月に移管されたワイン商品の貢献もあり、ワインの売上高は前期比29%増

海外

ライオンネイサン

◆ **引き続き好調を継続**

・ナショナル・プレミアムビールへの商品構成シフト 為替も増益要因に cf. 詳細はプレゼンp31ご参照

中国

競争環境の激化および四川大地震等の影響により、販売数量は前年同期比で減少

2008年中間期 飲料・食品セグメント レビュー

おいしさを笑顔に

KIRIN

営業利益は
全社・消去前

飲料・食品

(単位:億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	3,440	2,226	+54.6%	+1,214
連結営業利益	▲56	40	—	▲96

国内飲料事業の原材料高騰や競争環境激化、さらにナショナルフーズ社の想定を上回る原材料高騰や「のれん等償却」の影響などにより、減益

国内

麒麟ビバレッジ

- ◆ 国内飲料販売数量は、業界平均と同じく前年並みで着地
 - ・水や緑茶市場の成長減速の影響もあり、販売は計画に届かず
 - ・販促費を「基盤ブランド」や「麒麟レモン」の早期定番化にむけて戦略的に積み増した一方で、広告費は削減
- ◆ 生産基盤の整備
 - ・御殿場蒸溜所「アルカリイオンの水」製造ライン増設
- ◆ コストアップの負担増
 - ・多岐に渡る原材料の高騰が大きな減益要因に

麒麟フードテック

◆ 来年4月より協和発酵フーズ社と統合を行い、合併新会社「麒麟協和フーズ社」を発足すると発表
協和発酵

- ◆ 第2四半期から連結
 - ・食品事業はうま味調味料が伸長したが、製菓・製パン資材が減少し、前年同期並みの売上高に

海外

麒麟ビバレッジ

- ◆ 海外飲料の拡大
 - ・中国で引き続き「麒麟 午後の紅茶 ミルクティー」500mlペットボトルが好調 販売数量は前年同期を大きく上回る
 - ・ベトナムにて、エースコックグループと新会社設立

ナショナルフーズ

- ◆ 想定以上の原材料(生乳)コストの上昇の影響が大きく、計画利益は未達成
 - ・価格改定は着実に実行

2008年中間期 医薬セグメント レビュー

おいしさを笑顔に

KIRIN

医薬

(単位: 億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	696	314	+121.3%	+382
連結営業利益	109	48	+124.4%	+61

営業利益は
全社・消去前

協和発酵社の連結効果により売上、営業利益とも大幅増収増益

国内

協和発酵社の連結効果大

- ・協和発酵社の新規連結効果は、売上高 約420億円、営業利益 約105億円
(営業利益はのれん償却額 約14億円を含む)
- ・主力製品の貧血治療薬ネスプ/エスポーはシェアアップしたものの、市場の縮小等により売上高は減少

協和発酵

◆ Amgen社から契約一時金(100百万米ドル)計上

- ・ポテリジェント抗体 KW-0761導出に伴う一時金を計上

◆ 積極的な導入活動が成功

- ・アラナーナ社、アルナイラム社より開発品の導入、久光製薬(株)と共同販売契約の締結

キリンファーマ

◆ 二次性副甲状腺機能亢進症治療剤レグパラ錠の発売

- ・長期透析の重篤な合併症である二次性副甲状腺機能亢進症の治療薬として、全く新しい作用機序を持つレグパラ錠を発売

海外

◆ アジア現地法人の販売が順調に拡大

- ・アジア現地法人6社の売上高好調 為替の影響があったものの、売上高は6社計で40億円(前年比+2億円)

◆ キリンファーマ製造のネスプを承認申請

- ・韓国・台湾において、現在販売しているアムジェン社製造のアラネスプからキリンファーマ製造のネスプに切り替えるための承認申請を行った
- ・タイにおいてキリンファーマ製造のネスプの承認申請を行った

2008年中間期 その他セグメント レビュー

その他

(単位:億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	887	337	+162.8%	+550
連結営業利益	73	22	+227.6%	+51

営業利益は
全社・消去前

※07年実績は、08年より開始の新事業区分に合わせて変更済み

協和発酵社の連結効果により売上、営業利益とも大幅増収増益

協和発酵 2Qより新規連結

- ・ バイオケミカル事業: アミノ酸・医薬品原料が好調、増収に
- ・ 化学品事業: 販売数量は減少も、原燃料価格高騰を受け販売価格が上昇、増収に

アグリバイオ事業

- ・ 海外の業績が好調に推移

2008年 通期
セグメント別 取組み課題

2008年通期 酒類セグメント 取組み課題

おいしさを笑顔に

KIRIN

営業利益は
全社・消去前

酒類

(単位:億円)	08年目標	07年実績	前年比	増減
連結売上高	11,850	11,894	▲0.4%	▲44
連結営業利益	1,045	965	+8.2%	+79

キリンビール社は年初計画営業利益の達成を目指す 組織改変による本社管理費の減少もあり、増益に

国内

キリンビール

- ◆ 販売計画を修正するが、コスト削減等により、グループの中核企業として年初計画営業利益を目指す
「定番商品の強化」「糖質オフ商品の強化」「総需要の拡大」に引き続き取り組み、お客様支持率No. 1の実現へ
定番商品の強化:「キリン一番搾り(生)」、「麒麟淡麗(生)」、「キリン のどごし(生)」を中心に強化
糖質オフ商品の強化:7月に「氷結ZERO(ゼロ)」を新発売 「麒麟ZERO(ゼロ)」や「淡麗グリーンラベル」も強化
総需要の拡大:9月に新ジャンル新商品「KIRIN Smooth(キリン スムース)」を新発売
RTD:氷結ブランドの再強化に加え、20代ユーザーに向けたカクテル系需要の創出
焼酎・洋酒:重点商品にフォーカスした活動を展開 (焼酎では白水を中心に活動)
- ◆ コストコントロールを徹底し、引き続き収益重視の取組みを展開
販売数量の修正や、想定以上のエネルギーコスト上昇分を、販促・広告費などの削減でカバー
- ◆ キリンビバレッジ社・メルシャン社との事業シナジーの実現
清涼飲料自動販売機設置への協力 ワイン販売支援スキームの着実な実行

メルシャン

- ◆ ワイン・加工用酒類両事業でストロングNo.1の早期実現を目指す
営業力の強化とキリングループとの協働によるマーチャンダイジング活動を展開
加工用酒類事業は、専門営業の強化やキリングループとの連携によるグループシナジーの最大化を目指す

海外

ライオンネイサン:引き続き、ナショナル・プレミアムへのシフトを推進

中国 : 総合飲料グループ戦略を推進し、好調な飲料事業と酒類事業のシナジー創出を図る

酒類セグメント: キリンビール 2008年販売見込み (期央修正)



業界

※07年通期実績は課税数量ベース
(RTD計除く)

08年通期見込みは販売数量ベース

	07年通期実績	08年通期見込み (期央修正)	08年通期見込み (年初)
ビ+発+新	▲0.3%	▲3~4%程度	▲2%程度
ビール	▲0.9%	▲7%程度	▲3%程度
発泡酒	▲2.5%	▲5%程度	▲9%程度
新ジャンル	+4.4%	+6%程度	+9%程度
RTD計	▲10%程度	▲1%程度	+1%程度

キリン

ビール・発泡酒・新ジャンル: 235万KL⇒230万KL
に下方修正
RTD:
22万KL⇒21万KLに下方
修正
和洋酒その他:
売上高目標を480億円⇒
407億円に下方修正

ビール、発泡酒、新ジャンルは
1ケース=12.66L換算
(633ml×20本)、チューハイは1
ケース=6L換算(250ml×24本)

国内販売	07年通期実績		08年通期見込み (期央修正)			08年通期見込み (年初)	
	万KL	万ケース	万KL	万ケース	前年比	万KL	万ケース
ビ+発+新	236.0	18,640	230.0	18,170	▲2.5%	235.0	18,560
ビール	99.2	7,840	89.4	7,060	▲9.9%	93.9	7,420
発泡酒	82.4	6,510	83.4	6,590	+1.2%	80.2	6,330
新ジャンル	54.3	4,290	57.2	4,520	+5.4%	60.9	4,810
RTD計	19.9	3,320	21.0	3,500	+5.4%	22.0	3,670

2008年通期 飲料・食品セグメント 取組み課題

おいしさを笑顔に

KIRIN

営業利益は
全社・消去前

飲料・食品

(単位:億円)	08年目標	07年実績	前年比	増減
連結売上高	7,310	4,745	+54.0%	+2,565
連結営業利益	142	160	▲11.4%	▲18

収益性を重視した活動の徹底により、下半期での増益を目指す

国内

キリンビバレッジ ～次期中計以降の飛躍的成長に向けた事業基盤強化に軸足を移し、収益性重視の活動に～

◆キリンビール社との交流人事を総合飲料グループ戦略の重要なステップに

・リサーチマーケティング・R&D体制・営業体制の強化に取り組む

◆規模拡大のみに頼らない利益成長への質的転換を図る

- ・商品戦略は、基盤ブランドのエクステンションによる価値訴求や、KBCの空白カテゴリーである炭酸・ブレンド茶カテゴリーに基盤を作るため「キリンレモン」ならびに新ブランドのブレンド茶「潤る茶(うるちや)」を育成
- ・ブランドと容器アイテム・販売チャネルとのミックスによる利益率改善を図る (190g缶や小容量PETの強化等)
- ・キリングループや異業種とのコラボレーションによる価格訴求に頼らない店頭販促に注力
- ・施策の選択と集中を図り、マーケティング費用の効率化に取り組む

キリン ヤクルト ネクストステージ

キリンビバレッジグループ(小岩井乳業社ほか)やナガノトマト社、キリンフードテック社などとの連携強化

協和発酵

主力の天然調味料や製パン資材の拡販に努める一方、原料価格の高騰に対処すべく、コスト削減策に一層取り組む

海外

キリンビバレッジ

中国において「午後の紅茶」で獲得したお客様に、キリンブランドならではの新たな品質感やおいしさを新アイテムで提案

ナショナルフーズ

08年下半期は、前年同期比での生乳原価の上昇が上半期より落ち着くと見られ、ブランド強化と価格の適切な引き上げにより、収益性の向上を図る

収益性の高いコンビニエンスストアや飲食チェーン等への販売を強化

新規システム導入による業務効率化を完遂し、コストダウンへの準備を着実に進める

キリンフードテック

核酸系うま味調味料の販売強化を目指し、上海市で7月から「上海麒麟食科商貿有限公司」の営業を開始

08年から09年にかけて、主力商品の製造拠点を日本からインドネシアのキリン・ミオンフーズ社に移転し、収益力強化を図る

飲料セグメント：国内飲料 2008年販売見込み（期央修正）

業界

※販売数量ベース

カテゴリー	2008年上期	2008年予測	トピックス
緑茶計	97%	98%	出荷数量は微減。消費者心理は回復傾向。
ウーロン茶計	90%	93%	06年比で横ばい水準。
ブレンド・その他茶計	97%	99%	新規参入で活性化も、トータルではステイ～微減。
紅茶計	103%	103%	チルドが牽引し伸長。
コーヒー計	101%	101%	ほぼ前年並みの着地と推測。
果汁計	95%	94%	値上の影響により減少。
炭酸計	106%	103%	前年のハードルが高いため、下期は伸びが鈍化。
スポドリ・機能性計	93%	96%	上位ブランドへの集中は変わらず。減少傾向。
MW計	103%	104%	輸入水がマイナストレンドで上位集中化。
野菜計	89%	87%	値上の影響もあり減少。
清涼飲料市場計	100%	99%	ほぼ前年並みで着地の見通し。

出典：食品マーケティング研究所
当社推計

単位：万ケース

キリン

清涼飲料			2007年度年間実績		2008年度通期見通し				参考
			販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	年初計画
カテゴリー別	茶系飲料	日本茶	3,036	15%	2,950	14%	△ 86	97%	3,150
		烏龍茶	385	2%	350	1%	△35	91%	350
		紅茶	3,789	19%	3,900	19%	111	103%	3,900
		計	7,210	36%	7,200	34%	△10	100%	7,400
	コーヒー飲料		3,481	17%	3,700	18%	219	106%	3,800
	果実・野菜飲料		2,810	14%	2,800	13%	△10	100%	3,000
	炭酸飲料		655	3%	900	4%	245	137%	1,000
	水		3,816	19%	4,000	19%	184	105%	4,900
	その他		1,560	8%	1,550	8%	△10	99%	1,820
	国内市場清涼飲料計		19,532	97%	20,150	96%	618	103%	21,920
海外市場	海外市場清涼飲料計		714	3%	950	4%	236	133%	980
総合	清涼飲料計		20,246	100%	21,100	100%	854	104%	22,900

2008年通期 医薬セグメント 取組み課題

医薬

(単位:億円)	08年目標	07年実績	前年比	増減
連結売上高	1,750	699	+150.3%	+1,051
連結営業利益	344	130	+164.6%	+214

営業利益は
全社・消去前

協和発酵社の連結効果により通期でも売上、営業利益とも大幅増収増益

国内

◆ 新会社「協和発酵キリン株式会社」発足に向けての体制作り

- ・新会社誕生と同時にトップスピードで営業活動を展開するための準備を加速
- ・抗体治験薬等製造用新棟をバイオ生産技術研究所(高崎)内に建設開始
- ・両社独自の技術(KMマウス・ポテリジェント等)を使い、抗体開発をスピードアップ

◆ 腎領域のラインアップ充実によるお客様評価No.1の獲得

- ・ネスプ／エスポー合計で市場シェアの50%以上を獲得
- ・レグパラの早期市場浸透による新たな治療の提案

海外

◆ アジア・ASEAN地域の製品ラインアップの充実

- ・申請中のプロダクト(ネスプ、グランなど)の上市準備
- ・開発品のステージアップ

医薬事業パイプライン（協和発酵）

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
がん	KW-2246	PhⅢ		がん疼痛治療剤	舌下錠	Orexo	
	KW-0761	Ph I		抗悪性腫瘍剤 (血液がん)	注射	自社	ヒト化抗体 (がん領域以外および日本・中国・韓国・台湾以外の 開発/販売権を米国Amgen社へ2008年3月に導出)
	KW-2449		米国 Ph I	抗悪性腫瘍剤	経口	自社	
	KW-2478		欧州 Ph I	抗悪性腫瘍剤	注射	自社	
	ARQ 197	Ph I		抗悪性腫瘍剤	経口	ArQule	
アレルギー	KW-4679 アレロック		中国 申請準備中	抗アレルギー剤	経口	自社	本邦:発売中
中枢神経系	KW-6002	PhⅡb	米国 申請中 2007.4	抗パーキンソン剤	経口	自社	☆ 単剤投与 (Mono-Therapy) での臨床試験はPhⅡa(日本)。
	KW-6500	PhⅡ		抗パーキンソン剤	注射	Britannia Pharma.	
循環器	KW-3049 コニール		中国 申請中 2007.7	☆ 狭心症治療剤	経口	自社	☆ 中国で高血圧症治療剤として 2004年12月より発売中。 (本邦:発売中)
その他	Z-206 アサコール	PhⅢ		炎症性腸疾患治療剤 (クローン病)	経口腸溶製剤	ゼリア新薬	ゼリア新薬と共同開発。
	KW-7158	PhⅡa		腸疾患治療剤 (過敏性腸症候群)	経口	自社	過活動膀胱/尿失禁での開発 は2006年9月に中止。
	KW-3357	Ph I		血液凝固阻止剤 (汎発性血管内凝固症候群)	注射	自社	遺伝子組換えアンチトロンビン製剤

2008年7月末現在

医薬事業パイプライン(キリンファーマ)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
血液・がん	KRN321 ネスプ	PhⅢ		☆がん化学療法に伴う貧血治療剤	注射	Kirin-Amgen	☆持続型赤血球造血刺激因子製剤。日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として2007年7月より発売中。
	KRN125	PhⅡ		白血球減少症治療剤	注射	Kirin-Amgen	持続型G-CSF製剤
	KRN654	PhⅠ / Ⅱ		血小板増多症治療剤	経口	Shire	
	KRN330		米国 PhⅠ	抗悪性腫瘍剤	注射	自社	完全ヒト抗体
	AGS-003		米国・カナダ PhⅡ	免疫賦活性がん治療細胞医薬品 (腎細胞がん)	注射	Argos	
	AGS-004		米国 PhⅡ	免疫賦活性がん治療細胞医薬品 (HIV感染症)	注射	Argos	
腎臓	KRN321 ネスプ	PhⅢ	中国 PhⅡ	☆腎性貧血治療剤 (透析導入前)	注射	Kirin-Amgen	☆持続型赤血球造血刺激因子製剤。日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として2007年7月より発売中。
	PB94 フォスブロック/レナジェル		中国 申請中 2008. 6	高リン血症治療剤	経口	中外製薬	本邦：発売中
その他	NU206		PhⅠ	炎症性腸疾患治療剤	注射	Nuvelo	

2008年2月以降進捗した開発品目（地域・ステージ・申請・承認・発売等）

2008年7月末現在

(注) 韓国・台湾およびタイでキリンファーマ製造のダルベポエチン アルファ「ネスプ」を承認申請しました。

香港・シンガポールでは米国アムジェン社製造のダルベポエチン アルファ「アラネスプ」を発売していますが、順次キリンファーマ製造の「ネスプ」へと切り替える予定です。
その他のASEAN諸国では「ネスプ」での承認申請を行う予定です。

2008年通期 その他セグメント 取組み課題

その他

(単位:億円)	08年目標	07年実績	前年比	増減
連結売上高	2,390	672	+255.6%	+1,718
連結営業利益	164	63	+159.1%	+101

営業利益は
全社・消去前

協和発酵社の連結効果により通期でも売上、営業利益とも大幅増収増益

協和発酵

バイオケミカル事業

- ・ 医薬・工業用原料の拡販を国内外で進める
- ・ ヘルスケア製品分野で通販の拡大・新素材の市場定着を図る

化学品事業

- ・ ナフサ価格高騰には、価格改定を行い対応する
- ・ 基礎化学品・機能性製品の拡販に注力する

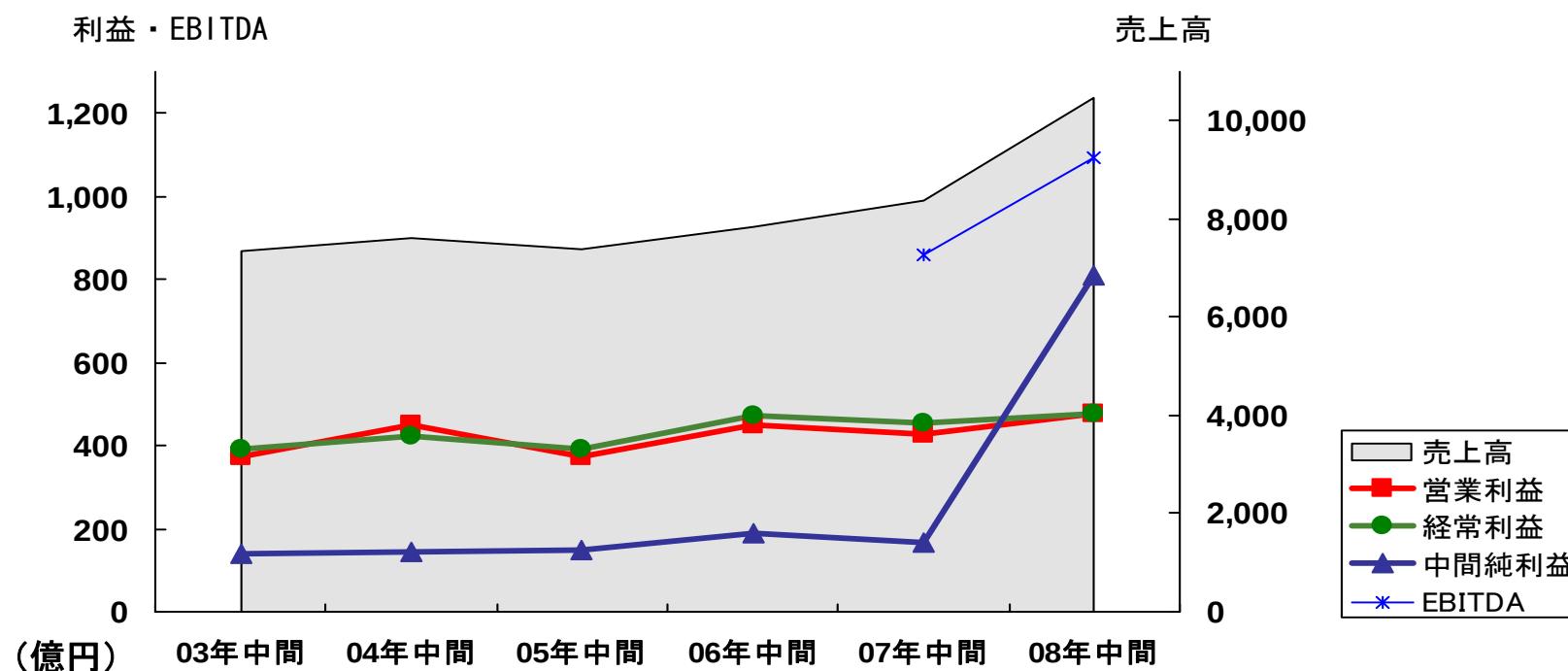
アグリバイオ事業

- ・ 高付加価値商品の研究開発に取り組む

2008年 中間決算概況
業績見込
【 連結 】

業績の推移（08年中間期実績）

連結



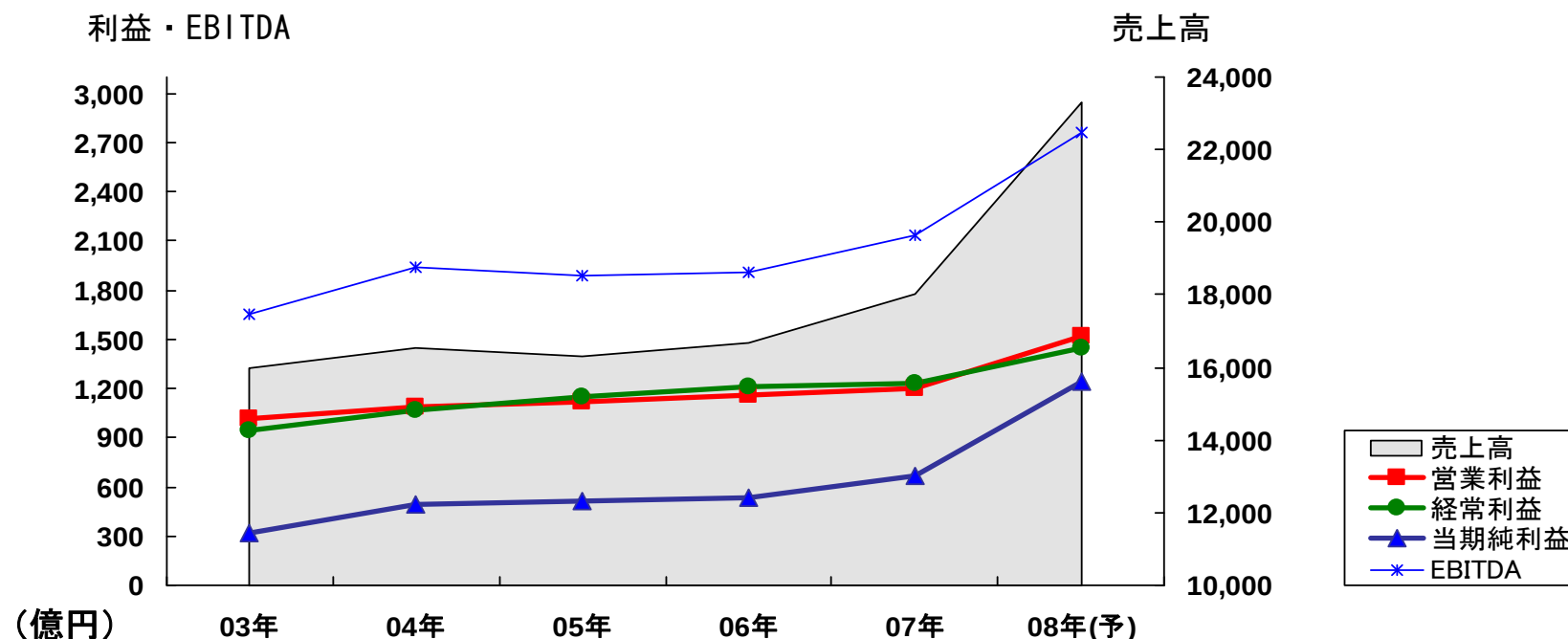
	03年中間	04年中間	05年中間	06年中間	07年中間	08年中間
売上高	7,328	7,594	7,402	7,827	8,360	10,478
営業利益	375	448	375	449	428	475
経常利益	390	424	390	471	456	476
中間純利益	139	142	149	189	167	811
EBITDA	—	—	—	—	857	1,093

EBITDA: 利払い前・税引き前・減価償却・その他償却前利益（持分変動利益を除く）

08年連結中間純利益は協和発酵社とキリンファーマ社の株式交換により発生した持分変動利益（726億円）で大幅増

業績の推移（通期見込み）

連結



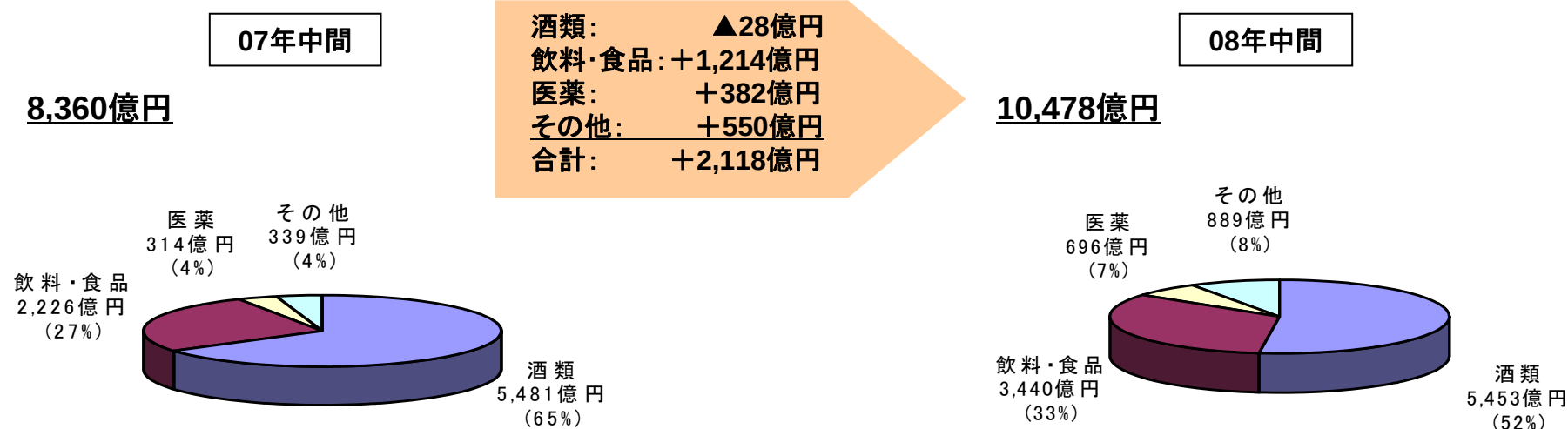
連結	03年	04年	05年	06年	07年	08年見込み
売上高	15,975	16,548	16,322	16,659	18,011	23,300
営業利益	1,015	1,093	1,117	1,163	1,206	1,520
経常利益	946	1,065	1,148	1,208	1,233	1,450
当期純利益	323	490	512	535	667	1,240
EBITDA	1,654	1,935	1,884	1,911	2,131	2,757

EBITDA: 利払い前・税引き前・減価償却・その他償却前利益（持分変動利益を除く）

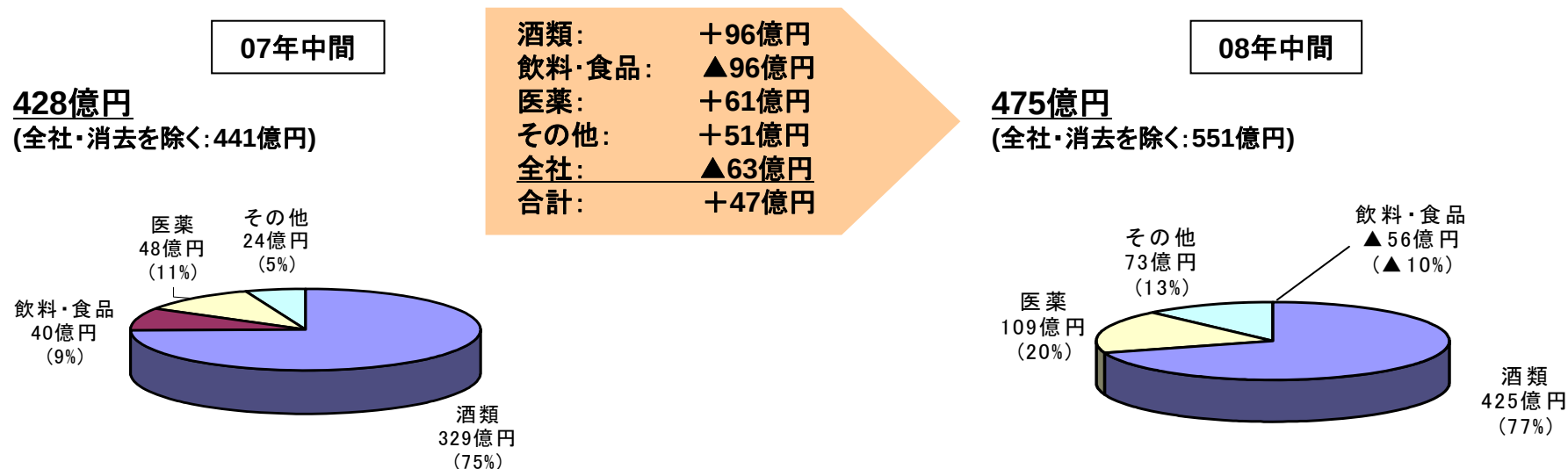
08年連結中間純利益は協和発酵社とキリンファーマ社の株式交換により発生した持分変動利益（726億円）で大幅増

【連結】セグメント別売上高・営業利益（中間期）

■ 売上高 協和発酵や豪州ナショナルフーズの連結効果もあり、飲料・食品、医薬、その他セグメントが大幅増収

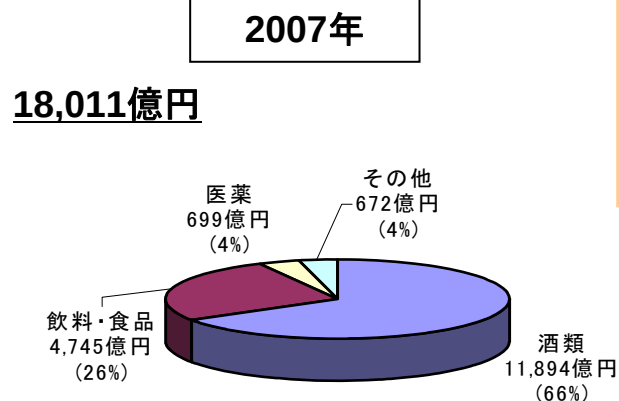


■ 営業利益 豪州ライオンネイサンの好調や協和発酵の連結効果もあり、酒類、医薬、その他セグメントで増益

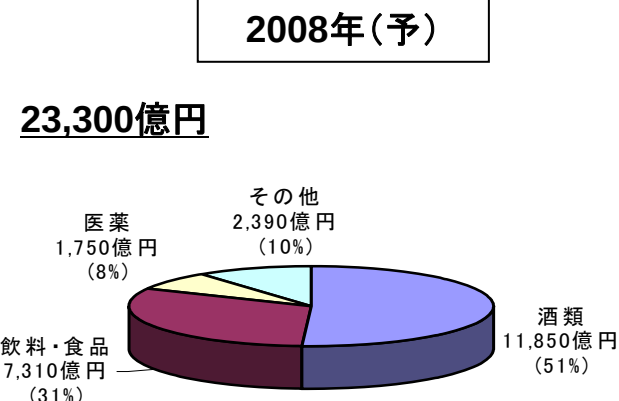


【連結】セグメント別売上高・営業利益 (07年⇒08年見込み)

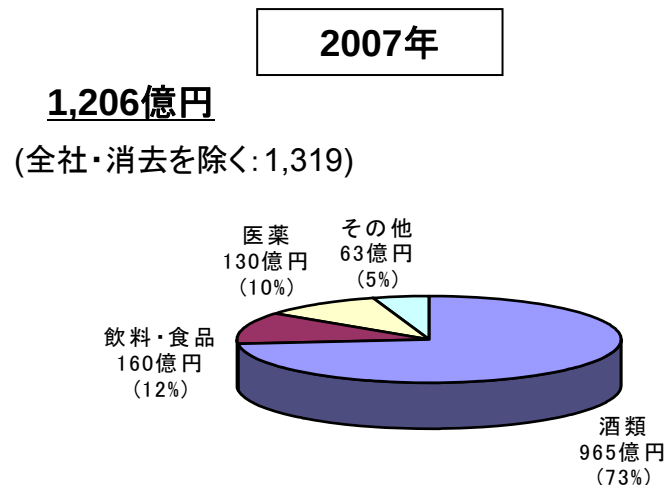
■ 売上高 協和発酵や豪州ナショナルフーズの連結効果もあり、飲料・食品、医薬、その他セグメントが大幅増収



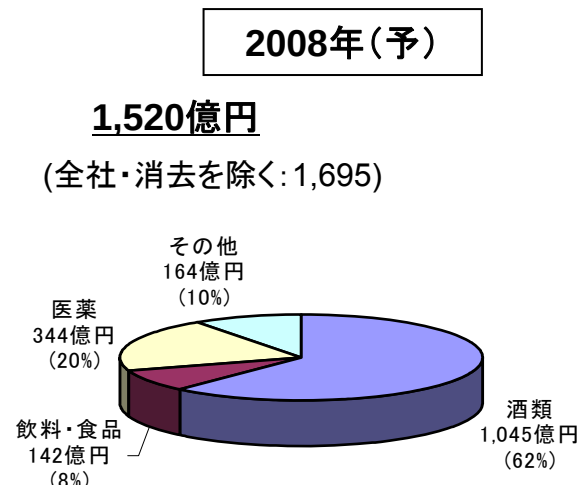
酒類: ▲44億円
飲料・食品: +2,565億円
医薬: +1,051億円
その他: +1,718億円
合計: +5,289億円



■ 営業利益 収益重視の活動の徹底により、飲料・食品事業も業績回復を見込む



酒類: +80億円
飲料・食品: ▲18億円
医薬: +214億円
その他: +101億円
全社: ▲62億円
合計: +314億円



2008年中間期 酒類セグメント営業利益 増減内容

(単位:億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
酒類	麒麟ビール	酒類限界利益増	25	ビール販売数量減 △67千kl △75億 発泡酒販売数量減 △2千kl △2億 新ジャンル販売数量増 19千kl 20億 RTD販売数量増 4千kl 0億 焼酎・洋酒・ワイン限界利益増 12億 価格改定による増・品種構成による差異 他
		コストダウン	3	エネルギー削減 3億
		原材料コストアップ	△ 37	缶・カートン価格高 △14億 砂糖・液糖価格高 △9億 麦芽価格高 △6億 他
		販売費減	35	販売促進費・広告費減 33億 (ビール・発泡酒・新ジャンル 51億、RTD △8億、 焼酎・洋酒・ワイン △10億 他)
		その他費用増	△ 27	運搬費減 3億 他 減価償却費増 △11億 電力料・燃料費増 △9億 修繕費増 △4億 他
		計	△ 1	
	ライオンネイサン ※1	営業利益増	34	242億→276億
		のれん償却費	△ 4	△20億→△24億
		ブランド償却費	△ 3	△33億→△36億
		計	26	
	メルシャン		1	△8億 → △7億
	組織改編による影響額		64	
	その他		6	
計			96	H19年度中間期 329 → H20年度中間期 425

※1 ライオンネイサン社の平成20年度中間期実績については、営業損益の一部を連結財務諸表上特別損益に組み替えており、上記は組み替え後の数値であります。

2008年中間期 飲料・食品、医薬、その他セグメント営業利益 増減内容

(単位:億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
飲料・食品	キリンビバレッジ	数量差異	13	販売数量増 121万ケース
		コストダウン	5	自工場製造効率アップ 他
		原材料コストアップ	△ 12	
		容器構成差異等	△ 18	
		販売費増	△ 17	販売促進費・広告費増 △14億、運搬費増 △3億
		その他費用増	△ 23	自動販売機投入増に伴う減価償却費増・販売機器費増 △6億、新規連結による費用増 △6億、情報処理費増 △4億、雑費増 △2億、研究開発費増 △1億 他
	計		△ 52	
	ナショナルフーズ	営業利益増	1	0→1億
		のれん償却費	△ 40	0→△40億 ※2
		ブランド償却費	△ 14	0→△14億 ※2
計		△ 53		
協和発酵 食品		3	0→3億	
その他		6		
計		△ 96	H19年度中間期 40 → H20年度中間期 △56	
医薬	協和発酵及びキリンファーマ ※3		57	売上総利益増 292億 研究開発費増 △97億 その他費用増 △124億 のれん償却費 △14億
	組織改編による影響額		4	
	計		61	H19年度中間期 48 → H20年度中間期 109
その他	協和発酵 バイオケミカル		29	0→29億
	協和発酵 化学品		5	0→5億
	その他		17	
計		51	H19年度中間期 22 → H20年度中間期 73	
消去又は全社	組織改編による配賦不能営業費用の増加		△ 70	
	その他		7	
計		△ 63	H19年度中間期 △12 → H20年度中間期 △75	
営業利益増		47	H19年度中間期 428 → H20年度中間期 475	

※2 算出に用いた時価等につきましては、暫定値に基づいております。 ※3 平成19年度中間期はキリンビール医薬セグメントの数値となっております。

2008年中間期 経常利益・中間純利益増減内容

(単位: 億円)

営業利益増		47	H19年度中間期 428 → H20年度中間期 475
営業外損益	金融収支	△ 53	△ 34億 → △ 87億
	持分法による投資損益	△ 31	サンミゲル △ 22億(うち株式売却に係る未実現利益消去 △ 45億)、協和発酵 △ 12億(うち投資差額償却額 △ 10億) 他
	為替差益	47	8億 → 55億
	その他	10	
計		△ 27	
経常利益増		20	H19年度中間期 456 → H20年度中間期 476
特別損益	固定資産売却益	82	
	持分変動利益	726	協和発酵株式交換
	その他	△ 2	
		806	
計			
法人税等及び少数株主利益	法人税等	△ 96	
	過年度法人税等	△ 19	ライオンネイサン
	少数株主利益	△ 66	
		△ 181	
計			
中間純利益増		644	H19年度中間期 167 → H20年度中間期 811

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成19年度中間期実績	平成20年度中間期実績
ライオンネイサン(オーストラリアドル)(円)	93.10	98.11
ナショナルフーズ(オーストラリアドル)(円)	—	97.59
サンミゲル (フィリピンペソ) (円)	2.44	2.61

2008年通期 酒類セグメント営業利益 増減内容

(単位:億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
酒類	麒麟ビール	酒類限界利益増	116	ビール販売数量減 △97千kl △112億 発泡酒販売数量増 10千kl 9億 新ジャンル販売数量増 29千kl 31億 RTD販売数量増 11千kl 15億 焼酎・洋酒・ワイン限界利益増 8億 価格改定による増・品種構成による差異 他
		コストダウン	17	工場製造効率アップ 10億 エネルギー削減 7億
		原材料コストアップ	△ 92	缶・カートン価格高、麦芽価格高、 砂糖・液糖価格高 他
		販売費減	65	販売促進費・広告費減 69億 運搬費増 △4億 他
		その他費用増	△ 94	減価償却費増 △28億 電力料・燃料費増 △22億 修繕費増 △7億 雑費増 △4億 他
	計		12	
	ライオンネイサン		△ 11	為替差異 ※1
	組織改編による影響額		64	
	その他		15	メルシャン 他
計			80	H19年度実績 965 → H20年度予想 1,045

※1 ライオンネイサンの平成19年度実績については、営業損益の一部に関して連結財務諸表上特別損益への組み替え等を行っており、上記は組み替え後の数値であります。また、同社は業績予想非公表のため、平成19年度実績外貨額を平成20年度予想値としております。(為替換算レートは見直し)

2008年通期 飲料・食品、医薬、その他セグメント営業利益 増減内容

(単位:億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
飲料・食品	キリンビバレッジ	数量差異	87	販売数量増 854万ケース
		コストダウン	12	自工場製造効率アップ 他
		原材料コストアップ	△ 38	
		容器構成差異等	6	
		販売費増	△ 30	販売促進費・広告費増 △23億、 販売数量増加に伴う運搬費増 △7億
		その他費用増	△ 60	新規連結による費用増 △19億、情報処理費増 △10億、 自動販売機投入増に伴う減価償却費増・販売機器費増 △8億、人件費増 △7億、研究開発費増 △5億 他
	計		△ 23	
	ナショナルフーズ	営業利益増	98	0→98億
		のれん償却費	△ 81	0→△81億 ※2
		ブランド償却費	△ 29	0→△29億 ※2
	計		△ 12	
計	協和発酵 食品		12	0→12億
	その他		5	
	計		△ 18	H19年度実績 160 → H20年度予想 142
	医薬	協和発酵及びキリンファーマ	210	売上総利益増 787億 研究開発費増 △208億 その他費用増 △326億 のれん償却費 △43億
		組織改編による影響額	4	
計			214	H19年度実績 130 → H20年度予想 344
その他	協和発酵 バイオケミカル		65	0→65億
	協和発酵 化学品		45	0→45億
	その他		△ 9	
計			101	H19年度実績 63 → H20年度予想 164
消去又は全社	組織改編による配賦不能営業費用の増加		△ 70	
	その他		8	
計			△ 62	H19年度実績 △113 → H20年度予想 △175
営業利益増			314	H19年度実績 1,206 → H20年度予想 1,520

※2 算出に用いた時価等につきましては、暫定値に基づいております。

2008年通期 経常利益・中間純利益増減内容

(単位: 億円)

営業利益増		314	H19年度実績 1,206 → H20年度予想 1,520
営業外損益	金融収支	△ 97	△53億→△150億
	持分法による投資損益	△ 35	協和発酵 △12億(うち投資差額償却額 △10億)
	その他	35	キリンアムジェン △24億 他
計		△ 97	
経常利益増		217	H19年度実績 1,233 → H20年度予想 1,450
特別損益	持分変動利益	726	協和発酵株式交換
	過年度持分法投資損失	19	
	その他	△ 86	過年度固定資産売却益 他
計		659	
法人税等及び 少数株主利益	法人税等	△ 154	
	少数株主利益	△ 149	△113億→△262億
計		△ 303	
当期純利益増		573	H19年度実績 667 → H20年度予想 1,240

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成19年度実績	平成20年度予想
ライオンネイサン(オーストラリアドル)(円)	96.72	98.00
ナショナルフーズ(オーストラリアドル)(円)	—	98.00
サンミゲル(フィリピンペソ)(円)	2.51	2.50

在外会社トピックス

ライオンネイサン 業績概況

2008年中間期(2007年10月－2008年3月)業績 (単位：百万豪ドル)

■ Net Revenue (売上高): 1,144.1 (前年比 +7.8%)

Boags社買収(3ヶ月分を連結決算に反映)、販売好調、イースター商戦(昨年は下期)時期ずれ等によりグループの売上高は7.8%増に。

オーストラリアはBoags社買収、高付加価値品へのシフト、主力商品の好調な販売により冷夏を補い9.6%の増収。
Boags社商品をFosters社に代わって開始。同社の事業統合とあわせ順調に推移。

ニュージーランドでは低迷傾向より脱出の兆し。販売数量増、シェアアップを達成。

ワインは米国向け輸出は減少するも、50%出資のワイン販社の完全子会社化が奏功。
好調なオーストラリア事業が北米での減少を補い引き続き堅調に推移、売上げは前年同期比19.3%増に。

■ Operating EBIT: 287.8 (前年比 +6.9%)

Boags社連結、ナショナル・プレミアムブランドへのシフト等により、原材料・エネルギー価格高騰を補って増益。

オーストラリアはBoags社の貢献もあり増益(+7.3%)。ニュージーランドでは好調な販売に加え新商品「Steinlager Pure」の立ち上げが成功、4.2%の増益。ワインは、好調なオーストラリア事業により25.4%の増益。

■ Operating NPAT (当期純利益): 167.7 (前年比 +7.0%)

■ Boags社買収における資金調達による支払利息増および同社統合費用により最終損益NPAT(特別損益計上後)は横ばいに(前年比+1.6%)

■ 事業別概況

- ・オーストラリアビール: 販売数量 + 3.4%、売上高 +9.6%、EBIT +7.3%
- ・ニュージーランド(ビール、ワイン、RTD他): 販売数量 + 4.6%、売上高* +2.1%、EBIT* +4.2% *NZ\$ベース
- ・ワイン: 販売数量 +8.5%、売上高 +19.3%、EBIT +37.7%

2008年通期(2007年10月－2008年9月)業績ガイド (LN公表ペース、Boags社分含む、単位：百万豪ドル)

■ NPAT (当期純利益): 265～275 (pre one-time and significant items)

※ キリン社連結業績見込みには、2007年実績値に新為替予想のみを反映 (次頁参照)

ライオンネイサン キリン社連結決算への取り込み

(単位:億円)

2008中間期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書 ※	1,100	276	235	161	74
連結調整勘定償却		▲ 12	▲ 12	▲ 12	▲ 12
ブランド償却		▲ 36	▲ 36	▲ 36	▲ 17
営業権償却		▲ 11	▲ 11	▲ 11	▲ 5
差引調整後	1,100	214	174	100	39
2007中間期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書 ※	967	242	204	150	69
連結調整勘定償却		▲ 12	▲ 12	▲ 12	▲ 12
ブランド償却		▲ 33	▲ 33	▲ 33	▲ 15
営業権償却		▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 3
差引調整後	967	188	150	97	37

期中平均レート(LN社P/Lに使用)
2008中間 1A\$ = ¥98.11円
2007中間 1A\$ = ¥93.10円

3月期末レート(LN社B/Sに使用)
2008中間 1A\$ = ¥91.74円
2007中間 1A\$ = ¥95.36円

6月期末レート(当社B/Sに使用)
2008中間 1A\$ = ¥102.38円
2007中間 1A\$ = ¥104.45円

2008通期見込み	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書 ※	1,927	457	367	276	127
連結調整勘定償却		▲ 25	▲ 25	▲ 25	▲ 25
ブランド償却		▲ 75	▲ 75	▲ 75	▲ 34
営業権償却		▲ 26	▲ 26	▲ 26	▲ 12
差引調整後	1,927	330	240	149	54

予想平均レート(LN社P/Lに使用)
2008通期予想 1A\$ = ¥98.00円

連結調整勘定償却：購入時のプレミアム510億円の20年償却分（約25億円/年）

ブランド償却：LNがM&A等で購入した無形固定資産の償却額。評価替え、為替変動の影響を受ける
2008中間期、2008通期見込みにはJ.Boags分を含んでいる

営業権償却：国際会計基準適用のLNでは2006年度より営業権償却を停止しているが、キリン連結上は継続償却
2008中間期、2008通期見込みにはJ.Boags分を含んでいる

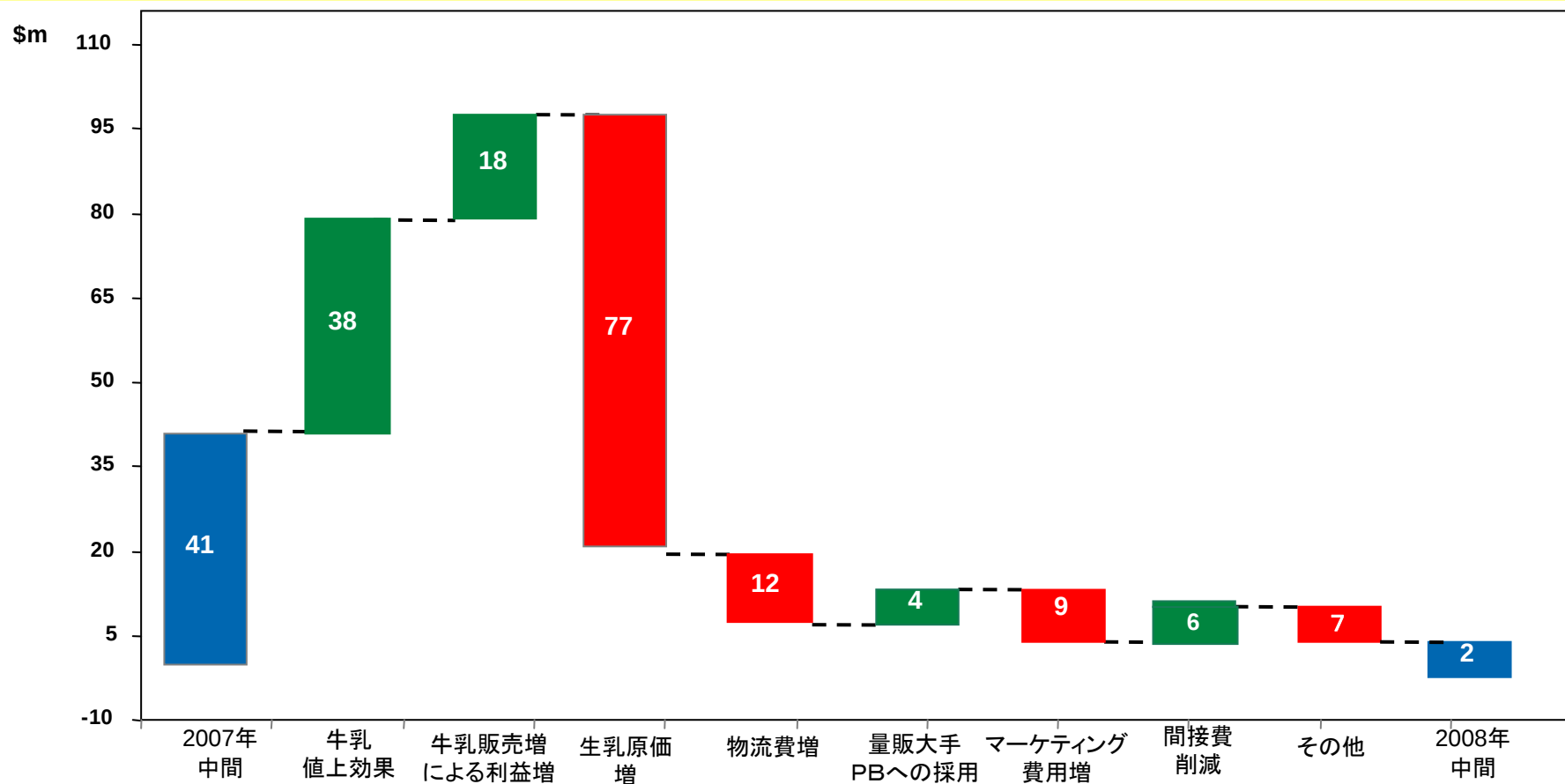
※LN損益計算書は営業損益の一部に関して連結上、特別損益へ組み替え等を行っており、上記数値は組み替え後である
LNは業績非公表のため、平成19年度実績外貨額を平成20年度予想値としている

ナショナルフーズ 2008年中間期実績

単位：百万豪ドル	2008年上半期	前年比
販売数量 (単位：百万リットル)	764	6%
総売上高 GROSS SALES	1,281	8%
純売上高 NET SALES	1,059	9%
EBIT	2	-95%
% to Net Sales	0%	
EBITDA	21	-64%
% to Net Sales	2%	

ナショナルフーズ 2008年中間期 営業利益(EBIT)増減分析

干ばつや需給のアンバランスによる生乳原価増、原油価格高騰による物流費増の影響が大きく、間接費削減など合理化に努めたものの、営業利益(EBIT)は前年同期比A\$39m減となった。



- 2007年7月より、生乳原価が大幅に上昇
- 2008年予算に見込んでいた以上の生乳原価増、それを価格に転嫁した結果生じた商品ミックスの悪化により、原価増を取り戻せていない。引き続きセールス・マーケティング活動における差別化によるブランド強化、戦略的な価格改定、販促費の効率的な使用等に重点を置く必要がある。
- 原油価格高騰のあおりを受け物流コストが増加： 2009～10年を目標にコスト削減に向けて物流網の見直しを図る。

ナショナルフーズ 2008年中間期セグメント別レビュー

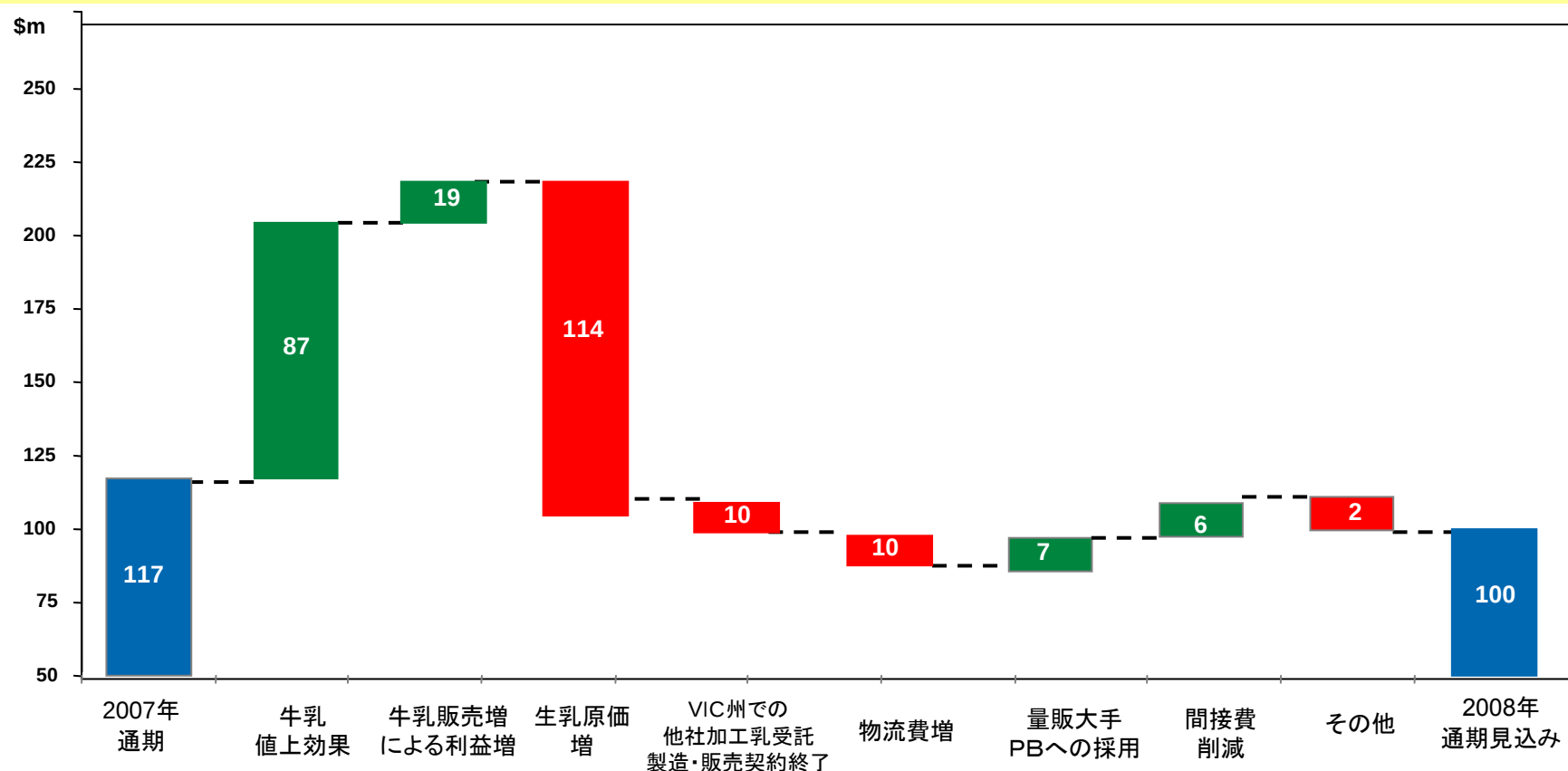
	2008年中間	2007年中間	前年同期差	コメント
全体				(単位: 販売数量 百万リットル / 純売上高 百万豪ドル)
販売数量	765	725	40	
純売上高	1,059	968	91	
ミルク				大手量販店でのPB新規採用により販売数量、売上高ともに07年同期比増になるも、商品ミックスが悪化傾向。原材料価格高騰を補うべく値上げを実施。収益向上・シェアアップを目指し自社ブランドの加工乳に重点を置く。
販売数量	435	399	36	
純売上高	484	420	64	
果汁飲料				果汁飲料カテゴリーも牛乳同様、収益性の低い商品へのシフトが見られる。値上げ効果で売上高は上昇するも商品ミックス悪化により微増に留まる。採算性の悪いPB契約の整理、販促活動の効率性向上により2008年下半期のブランド貢献利益は改善の見通し。
販売数量	233	236	(2)	
純売上高	256	251	5	
乳製品				クリームの販売数量が好調、ヨーグルトは前年同期比減。大容量パックが売上高を牽引するも、収益性は悪化。08年下半期はツイン・パックの販売数量増を望む。
販売数量	44	39	5	
純売上高	140	124	16	
チーズ等				コモディティ・チーズからスペシャリティ・チーズへと重点を移してきた。スペシャリティの値上げを行ったため数量は増えていないが、08年下半期はクリスマス商戦によりスペシャリティが売れるため利益は改善する。
販売数量	10	12	(1)	
純売上高	106	111	(5)	
海外及びニュージーランド				豪ドル高のあおりを受けるも、海外・NZ事業は好調 2008年下半期も好調トレンドは継続、予算達成の見通し
販売数量	42	39	3	
純売上高	73	62	11	

ナショナルフーズ 2008年通期業績見込み

単位：百万豪ドル	2008予	前年比
販売数量（単位：百万リットル）	1,503	2%
総売上高 GROSS SALES	2,608	6%
純売上高 NET SALES	2,143	7%
EBIT	100	-15%
% to Net Sales	5%	
EBITDA	143	-8%
% to Net Sales	7%	

ナショナルフーズ 2008年通期見込み 営業利益(EBIT)増減分析

2008年下半期は、前年同期比での生乳原価の上昇が上半期より落ち着き、値上げの浸透も進んだことから利益回復トレンドへ。通期では効果的なマーケティング活動により2007年比でA\$17m減まで改善を見込む。



- 2007年下半期には予算を上回る大幅な生乳原価増が発生したが、2008年下半期の生乳原価には既に反映されており、上半期ほど対前年同期比で生乳原価が上昇することはない模様。
- 果汁の売上原価が豪ドルの為替差益を受けるとともに、全カテゴリーでの生産効率アップが図られるため、2007年比での粗利益の低下や商品ミックスの悪化は相殺される見込みである。マーケ・営業チームは利益が見込めるPBの取り込みやブランド強化により販売増を目指す。
- 原油価格高騰のあおりを受け、物流コストが引き続き課題： 2009～10年を目標にコスト削減に向けて物流網の見直しを図る。

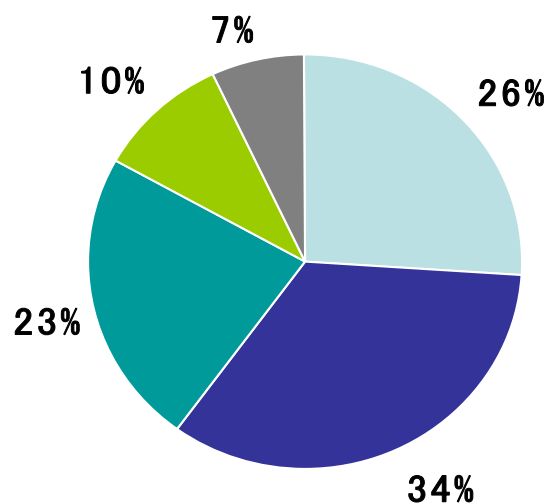
ナショナルフーズ 2008年通期見通し

	2008年通期	2007年通期	前年同期比	コメント
全体				(単位: 販売数量 百万リットル / 純売上高 百万豪ドル)
販売数量	1,503	1,466	37	
純売上高	2,143	2,006	137	
ミルク				大手量販店PB牛乳が販売数量を牽引する。加工乳におけるPBシェア拡大の歯止めを重点を置く。値上げによる原材料費増の吸収は2009年まで続く。自社ブランド商品の価格戦略に注力、新商品発売を実施する。
販売数量	857	800	57	
純売上高	974	863	111	
果汁飲料				不採算商品群を整理。下半期および2009年は自社ブランド商品のブランド力を強化し、液種製造の低コスト化・容量サイズの変更・新商品投入等により販売数量増を目指す。
販売数量	465	476	(10)	
純売上高	521	510	10	
乳製品				クリーム商品のさらなる値上げを実施。ヨーグルトは課題が残るも、ツイン・パック商品販売強化により高い粗利益をもたらす商品の販売数量増を目指す。SAP導入に伴う会計基準変更によりブランド貢献利益が一部増加する。
販売数量	78	78	(0)	
純売上高	273	244	28	
チーズ等				フィッシュ事業(スモークサーモン等)の売却、コモディティ・チーズからの撤退とスペシャルティ・チーズへ重点を置くことにより高収益構造に。販売数量減になるも、利益は増大の見込み。
販売数量	18	26	(8)	
純売上高	216	247	(30)	
海外及びニュージーランド				不採算事業の整理、販売数量・売上の高い優良顧客に注力。スペシャルティ・チーズは好調継続の見通し。
販売数量	85	86	(2)	
純売上高	160	142	17	

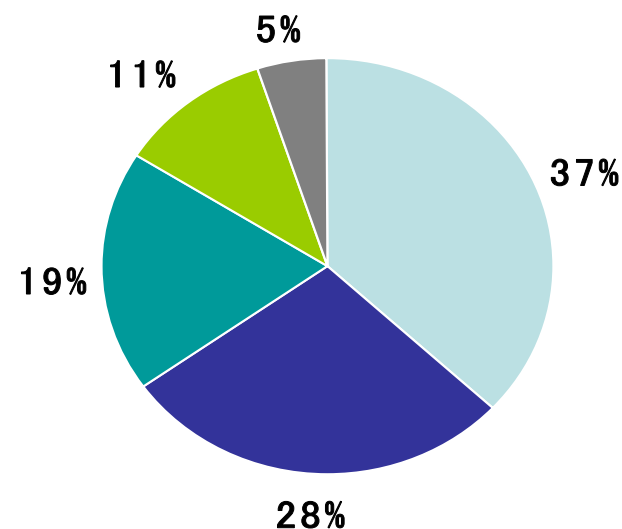
2008年中間・通期 セグメント別 ブランド貢献利益 (Brand Contribution)構成比

2008年上半期は生乳原価高騰の影響により、
牛乳セグメントのブランド貢献利益 (Brand Contribution) は26%にとどまったが、
通期では生乳原価上昇も一巡し37%まで回復する見込み

2008年中間



2008年通期見込



ミルク 果汁飲料 乳製品 チーズ等 海外およびニュージーランド

サンミゲル 事業概要、業績概況

08年8月現在 事業の進捗・トピックス

- ・ 2007年12月にはナショナルフーズ社、2008年1月にはJ.Boag社を売却。
(売却益が2007年10月-2008年3月の当期純利益に計上)
- ・ 5月12日 ビール事業会社「San Miguel Brewery Inc.」(SMB)のIPOを実施。SMB社発行済株式数の約5%を1株あたりPHP8.00で新規公募、売出株数を全て売却
- ・ 7月24日 株主総会を無事終了： 主要子会社のIPO・戦略的パートナーシップ構築を可能にするリストラクチャリングプランが承認される
- ・ 国内ビール事業が好調(1-6月※)： 販売数量アップ(+7%)がダイレクトに業績に反映、9%の増収、営業利益は7%増に。
原材料価格高騰に見舞われるも、コスト削減により相殺。

業績概況

2007年1月-12月(参考)

* 1ペソ=2.58円 (2007年1-12月 期中平均レート)
売上高： 1,548.8億ペソ(約3,996億円、+10%)
営業利益： 120.4億ペソ(約311億円、▲8%)
当期純利益： 83.51億ペソ(約215億円、▲16%)

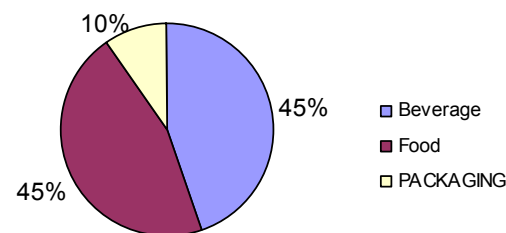
2007年10月-2008年3月： キリンホールディングス中間決算 反映分

* 1ペソ=2.61円 (2007年10-2008年3月平均レート)
売上高： 838.49億ペソ(約2,188億円)
営業利益： 63.48億ペソ(約165億円)
当期純利益： 125.92億ペソ(約328億円、+54.3%)

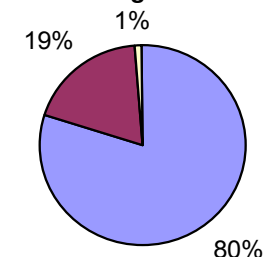
サンミゲル社セグメント別売上高・営業利益(FY2007)

アニュアルレポート セグメント情報欄より抜粋：Others, Eliminations分を除く
3事業のみの構成比を算出

Percentage of sales



Percentage of OP



サンミゲル キリン社連結決算への取り込み

(単位:億円)

2008中間期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	2,188	165	308	328	* 65
持分法投資損益*			65	65	65
投資差額償却額			▲ 10	▲ 10	▲ 10
差引調整後			54	54	54
2007中間期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	2,977	235	201	212	* 42
持分法投資損益*			42	42	42
投資差額償却額			▲ 10	▲ 10	▲ 10
差引調整後			31	31	31

期中平均レート(SMC社P/Lに使用)
2008中間 1PHP = ¥2.61円
2007中間 1PHP = ¥2.44円

3月期末レート(SMC社B/Sに使用)
2008中間 1PHP = ¥2.40円
2007中間 1PHP = ¥2.46円

2008通期見込み	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	5,909	453	387	286	* 57
持分法投資損益*			57	57	57
投資差額償却額			▲ 21	▲ 21	▲ 21
差引調整後			36	36	36

予想平均レート(SMC社P/Lに使用)
2008通期予想 1PHP = ¥2.50円

※2008年中間期実績は、Boags売却未実現利益を消去していない

※2006年度よりSMCの決算取り込み時期を変更。2008年上期はSMCの2007年10月-2008年3月、2007年上期はSMCの2006年10月-2007年3月の決算値を基礎として算出。2008年通期は2007年10月-2008年9月投資差額償却額：購入時（2002年、2005年）のプレミアム428億円の20年償却分（約21億円/年）SMCは平成18年10月から平成19年9月の実績外貨額を平成20年度予想値としている

補足資料

損益状況（連結）

	平成19年度				平成20年度			
	中間期(実績)		通期(実績)		中間期(実績)		通期(予想)	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
売上高（対前年増率）	8,360	6.8	18,011	8.1	10,478	25.3	23,300	29.4
営業利益（対前年増率）	428	△ 4.7	1,206	3.7	475	10.9	1,520	26.0
経常利益（対前年増率）	456	△ 3.1	1,233	2.1	476	4.3	1,450	17.5
当期純利益（対前年増率）	167	△ 11.5	667	24.7	811	383.0	1,240	85.9
EBITDA（対前年増率）	※1 857	△ 1.6	※1 2,131	11.5	※2 1,093	27.6	※2 2,757	29.4

※1 EBITDA = 税金等調整前中間(当期)純利益 + 支払利息 - 受取利息・配当金 + 減価償却費 + のれん償却費

※2 EBITDA = 営業利益 + 持分法による投資損益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 特別損益(持分変動利益を除く)

売上高明細（連結）

	平成19年度		平成20年度	
	中間期(実績)	通期(実績)	中間期(実績)	通期(予想)
売上数量（対前年増率）				
酒類	千KL %	千KL %	千KL %	千KL %
ビール・発泡酒・新ジャンル	1,605 △ 0.9	3,388 △ 0.3	1,552 △ 3.3	3,330 △ 1.7
百万C/S		百万C/S	百万C/S ※	百万C/S ※
飲料	112 4.8	239 4.5	113 1.0	249 4.1
売上高内訳（対前年増率）	億円 %	億円 %	億円 %	億円 %
総売上高	8,360 6.8	18,011 8.1	10,478 25.3	23,300 29.4
酒類	5,481 6.6	11,894 8.2	5,453 △ 0.5	11,850 △ 0.4
ビール・発泡酒・新ジャンル	4,472 0.9	9,708 2.4	4,423 △ 1.1	9,620 △ 0.9
その他の酒類	841 58.0	1,845 59.8	797 △ 5.3	1,745 △ 5.4
その他	167 △ 3.6	340 △ 5.3	233 39.5	485 42.3
飲料・食品	2,226 4.0	4,745 3.1	3,440 54.6	7,310 54.0
医薬品	314 0.7	699 4.0	696 121.3	1,750 150.3
その他	337 45.0	672 71.3	887 162.8	2,390 255.6
バイオケミカル	— —	— —	202 —	590 —
化学品	— —	— —	217 —	780 —
アグリバイオ	120 △ 12.5	215 14.6	119 △ 1.1	195 △ 9.6
その他	217 127.9	456 123.6	349 60.6	825 80.8

※ ナショナルフーズにおける飲料事業の販売数量中間期(実績)235,018KL、通期(予想)465,962KLは含まれておりません。

主要費用等（連結）

（単位：億円）

	平成19年度		平成20年度	
	中間期（実績）	通期（実績）	中間期（実績）	通期（予想）
販売促進費	836	1,814	922	} 2,680
広告費	385	690	411	
（販売促進費・広告費のうち）				
キリンビール国内酒類				
販売促進費	446	923	203	} 854
広告費			210	
キリンビバレッジ ※1				
販売促進費	579	1,212	525	} 1,235
広告費			68	
研究開発費	137	285	251	560
減価償却費 ※2	346	719	430	970
のれん償却費 ※3	38	74	99	216
金融収支	△ 34	△ 53	△ 87	△ 150
設備投資額（支払）	262	668	626	1,130
キャッシュ・フロー	△ 86	△ 342	△ 74	310
営業活動	181	1,145	398	1,600
投資活動	△ 1	△ 2,696	△ 660	△ 1,260
財務活動	△ 264	1,215	215	△ 20

※1 キリンビバレッジ連結の数値（飲料・食品）であります。

※2 ブランド償却費を含んでおります。

※3 投資差額償却額、営業権償却費

貸借対照表の主要増減内容（連結）

（単位：億円）

	平成19年度 中間期末	平成20年度 中間期末	増減	内容
（資産の部）				
流動資産				
受取手形及び売掛金	3,182	3,889	707	・新規連結子会社増による増加 ※ 及び前中間期末が休日による減少 他
その他流動資産計 （受取手形及び売掛金除く）	2,712	3,924	1,212	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
固定資産				
有形固定資産				
有形固定資産計	6,007	8,001	1,994	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
無形固定資産				
のれん	971	3,978	3,007	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
その他	681	1,339	658	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
投資その他の資産				
投資有価証券	5,873	5,759	△ 114	・キリンホールディングス保有株式の株価変動に よる評価差額の減少 他
保険積立資産	144	—	△ 144	・表示方法の変更による減少 他
その他	649	1,129	480	・新規連結子会社増による増加 ※ 及び表示方法の変更による増加 他
（負債の部）				
流動負債				
支払手形及び買掛金	1,184	1,980	796	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
短期借入金	159	2,104	1,945	・キリンホールディングスの増加 他
1年以内償還社債	—	440	440	・社債からの振替による増加
未払酒税	1,027	642	△ 385	・前中間期末が休日による影響 他
未払費用	823	1,012	189	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
その他	663	930	267	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
固定負債				
社債	988	2,423	1,435	・キリンホールディングス社債発行による増加
長期借入金	1,247	1,599	352	・ライオンネイサンの増加 他
退職給付引当金	593	819	226	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
その他	1,327	1,503	176	・新規連結子会社増による増加 ※ 他
（純資産の部）				
その他有価証券評価 差額金	1,585	1,034	△ 551	・キリンホールディングス保有株式の株価変動に よる評価差額の減少 他
少数株主持分	416	2,280	1,864	・新規連結子会社増による増加 ※ 他

※「新規連結子会社増による増加」は、協和発酵とナショナルフーズの株式取得によるものです。

キリンググループ連結財務指標ガイド

			平成19年度 実績	平成20年度 中間期実績	平成20年度 修正前通期 (予想) 4月30日公表	平成20年度 通期(予想)	平成21年度 修正中計
定量 目標	売上高(億円)	酒税込み	18,011	10,478	24,000	23,300	25,000
		酒税抜き	14,006	8,833	19,860	19,297	21,000
	営業利益(億円)		1,206	475	1,640	1,520	1,750
	営業利益率(%)	対酒税込み	6.7	4.5	6.8	6.5	7.0%以上
		対酒税抜き	8.6	5.4	8.3	7.9	8.3%以上
	ROE(%)		6.5	7.5	11.7	11.2	7.0%以上

ガイド ライン	セグメント別 売上高(億円)	酒類	11,894	5,453	12,230	11,850	12,100
		飲料・食品	4,745	3,440	7,690	7,310	7,800
		医薬	699	696	1,750	1,750	2,100
		その他	672	887	2,330	2,390	3,000
	セグメント別 営業利益(億円)	酒類	965	425	1,073	1,045	1,000
		飲料・食品	160	△ 56	237	142	280
		医薬	130	109	346	344	380
		その他	63	73	164	164	230
		消去又は全社	△ 113	△ 75	△ 180	△ 175	△ 140
	海外比率(%)	酒税抜き売上高	19	31	26	27	26%程度
	EBITDA(億円)		2,131	※1 1,093	※1 2,850	※1 2,757	3,300
	のれん等償却 (億円)	①2006年以前発生分	139	69	135	※2 137	138
		②2007年以降新規投資分	—	87	171	※3 187	198
		のれん等償却計(①+②)	139	156	306	324	336
	EPS(円)	のれん等償却②前	70	※1 18	※1 76	※1 72	105円程度
		のれん等償却後	70	85	136	130	85円程度
	D/Eレシオ		0.58	0.60	0.56	0.55	0.50を目安

※1 協和発酵との株式交換により発生する持分変動利益726億円を除いた数値で算出しております。

※2 のれん等償却 2006年以前発生分:137

ライオンネイサン108(ブランド償却費70、投資差額償却額25、営業権償却費13)
キリンビバレッジ21(投資差額償却額)他

※3 のれん等償却 2007年以降新規投資分:187

ナショナルフーズ110(ブランド償却費29、投資差額償却額5、営業権償却費76)
協和発酵59(投資差額償却額)
ジェイ・ボーグ・アンド・サン17(ブランド償却費4、投資差額償却額12)

連結セグメント別情報

平成20年度

(単位:億円)

	酒類		飲料・食品		医薬		その他		消去又は全社		合計	
	中間期	通期 (予想)	中間期	通期 (予想)	中間期	通期 (予想)	中間期	通期 (予想)	中間期	通期 (予想)	中間期	通期 (予想)
減価償却費 ※1	215	474	122	269	30	72	49	130	11	23	430	970
のれん償却費 ※2	25	55	55	114	15	43	2	3	—	—	99	216
EBITDA ※3	659	1,565	123	518	158	447	189	341	△ 36	△ 115	1,093	2,757
設備投資	310	527	163	264	23	60	128	263	1	13	626	1,130
研究開発費	26	48	9	30	183	392	17	57	14	31	251	560

※1 ブランド償却費を含む

※2 投資差額償却額、営業権償却費

※3 EBITDA = 営業利益 + 持分法による投資損益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 特別損益 (持分変動利益を除く)

主な連結会社別損益 2008年中間期実績

	(単位: 億円)				
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結純利益
キリンビール(子会社) ※1	3,847	152	—	—	—
メルシャン(子会社)	435	△ 3	△ 3	△ 2	△ 1
ライオンネイサン(子会社) ※2	1,100	276	235	161	74
ブランド償却費		△ 36	△ 36	△ 36	△ 17
のれん償却費 ※3		△ 24	△ 24	△ 24	△ 18
差引調整後	1,100	214	174	100	39
キリンビバレッジ(子会社)	1,877	△ 10	—	—	—
のれん償却費		△ 9	—	—	—
差引調整後	1,877	△ 20	—	—	—
ナショナルフーズ(子会社)	1,117	1	—	—	—
ブランド償却費 ※4		△ 14	—	—	—
のれん償却費 ※3、4		△ 40	—	—	—
差引調整後	1,117	△ 53	—	—	—
協和発酵及びキリンファーマ (子会社) ※5	1,254	170	187	95	48
協和発酵のれん償却費消去		23	23	23	12
のれん償却費		△ 16	△ 16	△ 16	△ 16
差引調整後	1,254	178	195	103	44
キリンファーマ(子会社) ※1、5	91	△ 34	—	—	—
協和発酵(関連会社) ※5	944	69	52	△ 6	* △ 1
持分法による投資損益 *			* △ 1	△ 1	△ 1
投資差額償却額 ※6			△ 10	△ 10	△ 10
差引調整後			△ 12	△ 12	△ 12
サンミゲル(関連会社)	2,188	165	308	328	* 65
持分法による投資損益 *			* 65	65	65
投資差額償却額 ※6			△ 10	△ 10	△ 10
差引調整後			54	54	54

※1 キリンビール・キリンファーマは単社の数値となります。

※2 ライオンネイサンについては、営業損益の一部を連結財務諸表上特別損益に組み替えており、上記は組み替え後の数値であります。

※3 投資差額償却額、営業権償却費

※4 算出に用いた時価等につきましては、暫定値に基づいております。

※5 協和発酵、キリンファーマについては、以下の会計期間の数値を取り込んでおります。

協和発酵及びキリンファーマ(子会社)・・・4～6月(キリンファーマを含む協和発酵連結)

キリンファーマ(子会社)・・・1～3月

協和発酵(関連会社)・・・1～3月

※6 科目: 持分法による投資損益

主な連結会社別損益 2008年通期予想

(単位:億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結純利益
キリンビール(子会社) ※1	8,828	560	—	—	—
メルシャン(子会社)	980	16	15	12	6
ライオンネイサン(子会社) ※2	1,927	457	367	276	127
ブランド償却費		△ 75	△ 75	△ 75	△ 34
のれん償却費 ※3		△ 51	△ 51	△ 51	△ 37
差引調整後	1,927	330	240	149	54
キリンビバレッジ(子会社)	4,180	118	—	—	—
のれん償却費		△ 19	—	—	—
差引調整後	4,180	98	—	—	—
ナショナルフーズ(子会社)	2,100	98	—	—	—
ブランド償却費 ※4		△ 29	—	—	—
のれん償却費 ※3、4		△ 81	—	—	—
差引調整後	2,100	△ 12	—	—	—
協和発酵及びキリンファーマ(子会社) ※5	3,710	473	468	250	125
協和発酵のれん償却費消去 ※6		71	71	71	36
のれん償却費		△ 48	△ 48	△ 48	△ 48
差引調整後	3,710	496	491	273	113
サンミゲル(関連会社) ※7	5,909	453	387	286	* 57
持分法による投資損益 *			* 57	57	57
投資差額償却額 ※8			△ 21	△ 21	△ 21
差引調整後			36	36	36

※1 キリンビールは単社の数値であります。

※2 ライオンネイサンの平成20年度予想については、営業損益の一部に関して連結財務諸表上特別損益への組み替え等を行っており、上記は組み替え後の数値であります。また、同社は業績予想非公表のため、平成19年度実績外貨額を平成20年度予想値としております。

※3 投資差額償却額、営業権償却費

※4 算出に用いた時価等につきましては、暫定値に基づいております。

※5 キリンファーマを含む協和発酵(連結)の数値は平成20年4月から12月までの予想値となります。

※6 協和発酵(連結)にて計上される、キリンファーマとの株式交換に伴い発生したのれん償却費につきましては当社連結決算にて消去しております。

※7 サンミゲルについては、平成18年10月から平成19年9月の実績外貨額を平成20年度予想値としております。

※8 科目:持分法による投資損益

酒類売上明細(麒麟ビール)

	平成19年度				平成20年度			
	中間期(実績)		通期(実績)		中間期(実績)		通期(予想)	
売上数量(対前年増率)	千KL	%	千KL	%	千KL	%	千KL	%
ビール	451	△ 0.7	1,001	△ 1.8	381	△ 15.5	899	△ 10.2
発泡酒	380	△ 6.0	824	△ 4.9	378	△ 0.5	834	1.2
新ジャンル	232	△ 1.2	543	10.4	251	8.2	572	5.3
計	1,065	△ 2.7	2,369	△ 0.4	1,012	△ 5.0	2,305	△ 2.7
RTD	79	△ 24.1	200	△ 12.5	83	5.1	210	5.0
売上高(対前年増率)	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
ビール	1,802	△ 0.7	4,025	△ 1.5	1,558	△ 13.5	3,700	△ 8.1
発泡酒	1,122	△ 5.9	2,431	△ 4.8	1,147	2.2	2,530	4.1
新ジャンル	597	2.4	1,396	12.3	658	10.2	1,500	7.4
小計	3,522	△ 1.9	7,854	△ 0.4	3,364	△ 4.5	7,730	△ 1.6
RTD	215	△ 21.7	532	△ 11.9	224	4.2	570	7.1
焼酎・洋酒・ワイン・その他	162	△ 0.1	424	17.7	215	32.7	450	6.1

上記売上数量、売上高には輸出分を含んでおります。

清涼飲料売上明細(キリンビバレッジグループ)

<カテゴリー別>

清涼飲料			平成19年度中間期		平成20年度中間期				平成20年度通期見通し				平成19年度年間実績	
			販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比
カテゴリー別	茶系飲料	日本茶	1,499	16%	1,391	15%	△ 108	93%	2,950	14%	△ 86	97%	3,036	15%
		烏龍茶	186	1%	157	1%	△ 29	84%	350	1%	△ 35	91%	385	2%
		紅茶	1,685	18%	1,716	18%	31	102%	3,900	19%	111	103%	3,789	19%
	計		3,370	35%	3,264	34%	△ 106	97%	7,200	34%	△ 10	100%	7,210	36%
	コーヒー飲料		1,637	18%	1,681	18%	44	103%	3,700	18%	219	106%	3,481	17%
	果実・野菜飲料		1,290	14%	1,176	12%	△ 114	91%	2,800	13%	△ 10	100%	2,810	14%
	炭酸飲料		270	3%	431	4%	161	160%	900	4%	245	137%	655	3%
	水		1,709	18%	1,784	19%	75	104%	4,000	19%	184	105%	3,816	19%
	その他		781	8%	746	8%	△ 35	96%	1,550	8%	△ 10	99%	1,560	8%
	国内市場清涼飲料計		9,057	96%	9,082	95%	25	100%	20,150	96%	618	103%	19,532	97%
海外市場	海外市場清涼飲料計		334	4%	430	5%	96	129%	950	4%	236	133%	714	3%
総合	清涼飲料計		9,391	100%	9,512	100%	121	101%	21,100	100%	854	104%	20,246	100%

<容器別>

清涼飲料			平成19年度中間期		平成20年度中間期				平成20年度通期見通し				(単位：万ケース) 平成19年度	
容器別	区分	内訳	販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比
缶容器	缶	ボトル缶を含む	1,917	20%	1,999	21%	82	104%	4,300	21%	332	108%	3,968	20%
PET容器	大型PET	2L	1,806	19%	1,792	19%	△ 14	99%	3,900	19%	△ 58	99%	3,958	20%
		1.5L、1L、900ml、750ml	682	7%	782	8%	100	115%	1,800	8%	240	115%	1,560	7%
		大型PET計	2,488	26%	2,574	27%	86	103%	5,700	27%	182	103%	5,518	27%
	小型PET	500ml	2,357	25%	2,394	25%	37	102%	5,400	26%	266	105%	5,134	26%
		350ml以下	1,181	13%	1,103	12%	△ 78	93%	2,400	11%	△ 201	92%	2,601	13%
	小型PET計		3,538	38%	3,497	37%	△ 41	99%	7,800	37%	65	101%	7,735	39%
PET合計		6,026	64%	6,071	64%	45	101%	13,500	64%	247	102%	13,253	66%	
その他容器	ワンウェイ・リターナブル壺、紙、ギフト他		1,114	12%	1,012	10%	△ 102	91%	2,350	11%	39	102%	2,311	11%
海外市場	清涼飲料計		334	4%	430	5%	96	129%	950	4%	236	133%	714	3%
全容器	容器総合計		9,391	100%	9,512	100%	121	101%	21,100	100%	854	104%	20,246	100%

医薬品売上明細(協和発酵及びキリンファーマ)

(単位:億円)

	平成19年度		平成20年度	
	中間期(実績)	通期(実績)	中間期(実績)	通期(予想)
エスポー/ネスプ	198	449	157	410
グラン/ノイアップ	64	148	66	160
コニール	—	—	60	176
アレロック	—	—	51	156
レグパラ	—	—	14	55
パタノール	—	—	6	26
トピナ	—	—	1	8

実績・予想とも国内仕切価ベース(割戻金除く)の表示であります。

平成19年度中間期(実績)および通期(実績)は、キリンファーマの数値であり、平成20年度中間期(実績)における第2四半期および通期(予想)はキリンファーマを含む協和発酵の数値であります。

おいしさを笑顔に

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

**This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation
or offer to buy or sell securities or related financial instruments.**